



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

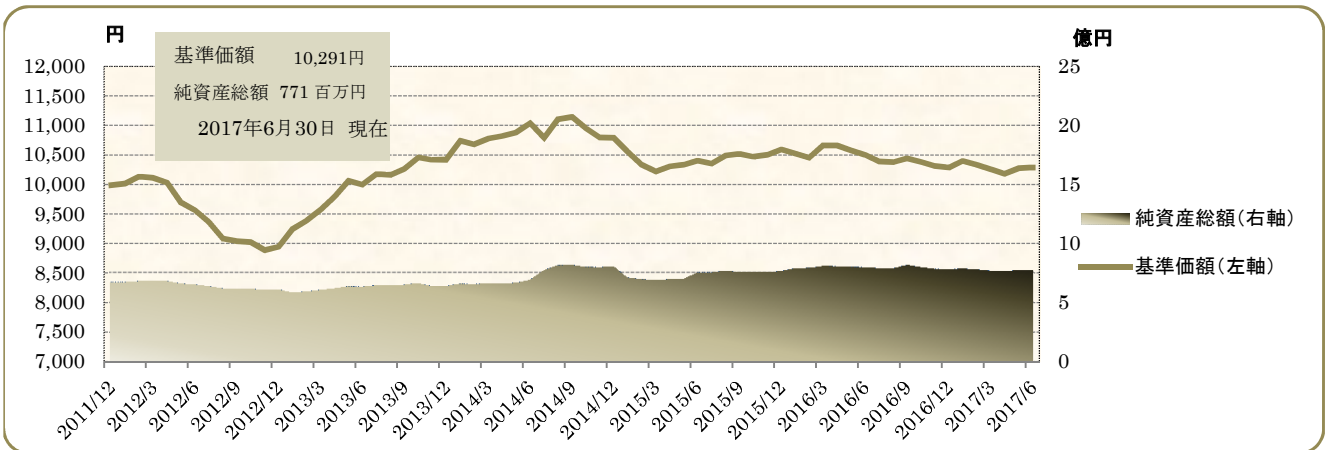
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2017年6月30日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

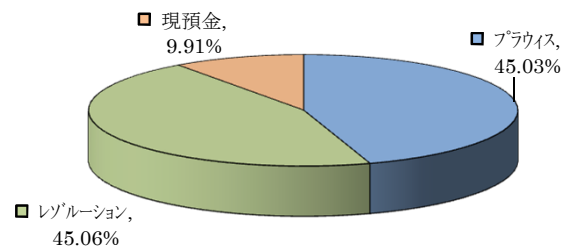
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%	-0.65%	-0.70%	-0.74%	0.89%	0.15%							0.05%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2017年6月30日	
基準価額:	10,291円	対前月比 15円
純資産総額:	771百万円	対前月比 -0.8百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	0.29%
基準価額騰落率	6ヶ月	0.05%
設定来	ファンド	2.91%
基準価額騰落率	TOPIX	122.77%
	日経平均	138.44%

投資対象ファンドへの資産配分 (2017年6月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	0.49%	-0.64%	-1.07%	0.54%	0.23%	1.11%							0.65%
レゾリューション	2.64%	-0.21%	0.10%	-1.57%	2.37%	-0.94%							2.34%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウイズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A ※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ブラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウイズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウイズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウイズダムは2017年1月25日をもって償還しました。

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

6月の株式相場は、日経平均で1.95%上昇の20,033.43円、TOPIXで2.78%上昇の1,611.90ptとなりました。月初めに好調な内外経済統計が好感され上昇して始まり、その後FRBの利上げや仏議会選の結果などを背景に上昇が続きましたが、月末には欧米金融緩和縮小への警戒が高まり、欧米株安に追従して日本株も下落する場面が見られました。

上旬は、上昇しました。法人企業統計での設備投資が伸びたことや、良好な米経済指標を受け上昇して始めました。その後米国の景気や政治への不透明感、米長期金利の低下を受け円相場が上昇し、重要イベントを前に利益確定売りに押されましたが、下値では出遅れ感のある銘柄などに買いが入りました。

中旬も、上昇しました。FOMC前は様子見ムードで、米利上げのペースが鈍化するとの見方により米金利が低下し下落しましたが、FOMCの結果、米利上げが継続する見通しとなり、上昇に転じました。米株高を受け、幅広い銘柄に買いが入りました。

下旬は、日米の金融政策会合を無事に通過し、材料不足から積極的な売買は見送られました。米株安や円安一服、原油安を背景に、外需株や石油関連株などの売りが出ました。

需給面では、海外投資家が3ヵ月ぶりに売り越しとなりました。国内の投資主体は、信託銀行が5ヵ月ぶりの買い越し、個人投資家は3ヵ月連続の売り越し、投資信託は2ヵ月連続で売り越し、事業法人は15ヵ月連続の買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、銀行、空運、その他製品、鉄鋼、パルプ・紙が上位となり、食料品、電力・ガス、小売、情報通信、輸送用機器が下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり2.41兆円と、活況の目安となる2兆円を8ヵ月連続で上回りました。

新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが3.3%の上昇、東証マザーズ指数は7.0%の上昇となり、いずれもTOPIXをアウトパフォームしました。

ファクター面では、ベータファクターやバリューファクターが反発しました。これらのファクターのリターンは、原油価格の下落や長期金利の低下、グローバル景気回復の遅れなどを背景に6月中旬過ぎまでは軟調な推移でした。しかし、最終週は原油価格の反転や長期金利の急上昇を受けて、マクロ指標の急激な変化に対するリスクヘッジ等のために幅広い割安株が買われ、バリューファクターのリターンが大幅なプラスとなりました。一方でグロースファクターのリターンは、銀行業などの低ROEセクターの株価上昇が影響し、先月から一転して低調となりました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】 〈ファンド運用状況〉

6月の運用成績はJPYクラスで+1.11%となりました。6月中旬以降、内需グロース銘柄が相対的にアンダーパフォームしたことや、幅広いセクターで割高・割安の修正が起きたことがプラスの要因となりました。

セクター別の損益では、化学、銀行、その他製品、陸運、機械セクターでプラスとなり、証券、電機セクターでマイナスとなりました。

【レゾリューション】 〈ファンド運用状況〉

6月の相場は、月央に向けてバリューが弱く、月末に向けて戻すなど、全体としてはあまり特徴の無い状況となりました。一方、ハイバリュエーションで極端に回転率の高い一部小型株の勢いは衰えず、引き続き一極集中の相場となりました。

ポートフォリオは、グロース銘柄のロングの比率を落とし、ショートポジションの積み上げを多少進め、徐々にグロースバイアスの解消を進めています。

相場の転換を意識しつつも、マクロ連動のバリューが買い難い環境にあります。

個別銘柄では、インバスタークラウド(1435)やネクシーズグループ(4346)のロングなどがプラス寄与となりました。

パフォーマンスは、ハイバリュエーションなショート銘柄のマイナス寄与が大きく、ロング銘柄でカバー出来なかったことから、結果としてマイナスに終わりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

7月の株式市場は緩やかに上昇する相場展開を想定します。7月後半から始まる第一四半期決算では、企業のガイダンスが保守的で今後の上修正期待が高まると考えられることから、徐々に下値を切り上げる可能性が高いと思われます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

足元、会社ガイダンスに基づいた株価反応が一巡して、穏やかな状態にある銘柄と、業績好調ながら回転率が高い一方通行の株価推移となる銘柄との二極化が目立っています。

内需グロース株の循環物色も想定されますが、いずれ調整局面を迎えざるを得ないと考えます。当面は、銘柄入れ替えに注力し、ロングでは、内需の安定成長銘柄の組み入れを増やします。

短期的なボラティリティ上昇のリスクがあるものの、これら高回転率の高バリュエーション銘柄の吟味を進め、徐々にショートポジションへの組み入れを行います。

事業環境の濃淡も出始めていることから、引き続き業績に裏付けされた個別株によるパフォーマンス積み上げに努めて参ります。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。